



HAMAMATSU MEDICAL CENTER

328, Tomitsuka-cho, Cyuou-ku Hamamatsu-shi, Shizuoka-ken, 432-8580, Japan

令和 6 年度

公益財団法人浜松市医療公社

事業計画



令和 6 年 3 月

浜松医療センター

<前文>

公益財団法人浜松市医療公社は、浜松市から浜松医療センターの管理運営を受ける指定管理者団体として指定されており、当該指定期間である令和3年度から令和7年度までの5カ年の中期計画に基づき、以下のとおり、令和6年度事業計画を定める。

令和6年1月に完成・開院した新病棟は、救急医療と高度専門的医療をさらに充実させ、地域の中核病院として、質の高い安全な医療を提供していくとともに、地域住民が、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療環境を確保するために、「地域医療支援病院」として地域の医療機関と連携しながら、地域医療をリードする病院としての役割を果たしていく。

新病棟建設においては、高度医療の提供及び療養環境の改善が可能となったメリットが大きい反面、設備投資等に伴う費用増加が病院経営に与える影響は大きいことから、今後の収支状況の改善は、喫緊の課題となる。

また、地域医療構想による病床の必要性、人口減少や少子高齢化等の進展、医師・看護師等の確保と働き方改革への対応など、医療を取り巻く環境が変化する中、引き続き、多様なニーズに応え、これまで以上に地域に信頼される病院として、良質かつ安全な医療を提供し続けていく。キャッチコピーである「健やかな未来に向かって」のもと、目指す医療の実現に向け、収入の確保及び費用の削減に取り組み、経営基盤の安定化に努める。

以上の認識のもと、次の病院目標を定め、中期計画を着実に進める。

【基本理念】

安全・安心な、地域に信頼される病院

【病院目標】

[診療]

地域連携の強化と高度で良質な医療を提供することにより地域の医療水準の向上を図る。

[経営]

医療制度改革や地域医療構想の動向を的確に把握し効果的な収入増加と費用削減に努める。

1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 政策的医療に関する業務

ア 救急医療

充実

- ① 二次救急医療機関並びに三次救急医療機関として、新設したハイブリッドERや血管造影装置等を活用し、脳血管障害、心疾患、多発外傷等を中心に救急患者を受け入れ、地域の救急医療の需要に対応する。
- ② 24時間365日断らない医療の実現に向けて、救命病棟と隣接配置とした救急外来の利点を生かし、救急医療の円滑な診療・治療体制を確立する。
- ③ 救急医療の重要性を認識し、救急搬送患者及び紹介患者を積極的に受け入れる。

関連指標	令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
救急患者数	11,494人	12,331人	12,500人
入院	4,387人	5,000人	5,000人
外来	6,647人	7,500人	7,500人
救急搬送受入患者数	6,156人	6,475人	6,200人
救急搬送患者応需率	84.3%	74.8%	80.0%

イ 小児・周産期医療

- ① 地域周産期母子医療センターとして、産科病棟及び NICU を含む新生児病棟を活用し、常時母体及び新生児の受け入れ体制を維持するとともに、合併症妊娠、切迫早産、胎児異常等、母体又は胎児におけるリスクの高い妊娠に対する医療、高度な新生児医療を提供する。
- ② NIPT（非侵襲性出生前遺伝学的検査）及び出生前の遺伝相談に対応する等、難治性の遺伝子解析を実施し、認定基幹施設としての役割を果たす。
- ③ 新病棟開院に伴う外来・病棟環境の改善等の情報を広く発信し、分娩受け入れ件数を維持する。また、市立湖西病院への助産師派遣を継続し、妊産婦の受け入れを推進する。
- ④ 産婦人科専門医と麻酔科専門医による分娩管理のもと、質の高い安全な無痛分娩を提供する。
- ⑤ リプロタグティブヘルス（性や妊娠、出産、生殖等に関する悩み）外来の開設に向けて、運用体制を整備する。
- ⑥ 産後ケア事業の推進を図り、安心して子育てができるよう支援する。
- ⑦ 地域の小児医療の中核的役割を果たすため、継続して小児一次救急（休日当番診療）の提供に努める。

関連指標		令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
小児科のべ患者数	入院	3,420人	2,887人	4,300人
	外来	17,904人	17,722人	17,800人
	分娩件数	658件	558件	500件

ウ 感染症医療

- ① 海外渡航に伴うワクチン外来を継続し、予防投与や体調不良等、グローバルに活躍される方の健康面を支援する。
- ② 新興感染症の蔓延に対して、県、市、地域医療機関と連携を図り、市民の安全確保及び感染対策に取り組む。
- 充実** ③ 3号館改修工事にて、感染症の初期対応が可能な外来エリア及び入院病棟を設置する計画から、感染管理室にて運用を再確認するとともに、マニュアルの作成等を検討していく。

エ 災害時医療

- ① 災害時において、傷病者の受け入れ及び医療救護班(DMAT)の派遣等、災害拠点病院として医療救護活動を実施する。
- ② 浜松地区人工透析施設災害時拠点病院として、患者の受け入れに迅速に対応する。

オ 障がい者歯科診療

- ① 歯科診療所との機能分化及び連携を強化し、一般診療所では困難な患者の歯科診療を行い、地域歯科診療の中核的役割を果たす。
- ② 口腔疾患の重症化予防及び口腔機能低下への対応、並びに生活の質に配慮した歯科診療を推進する。

(2) 高度・専門医療に関する業務

ア 高度・先進的医療

充実

- ① 呼吸器外科、泌尿器科、消化器外科によるロボット（ダビンチ）手術による実施件数の増加に努める。
- ② 新病棟の拡充した無菌室環境を効果的に活用し、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの専門的治療を積極的に実施する。
- ③ 血友病診療に対する地域中核病院の認定施設として、個々のニーズに応じた最適な治療を提供する。
- ④ 股関節・膝関節・脊椎疾患関連の専門的手術に対して、近隣の開業医と緊密な連携関係を維持・増進し、さらなる件数の増加を図る。
- ⑤ 新設した血管造影室、ハイブリッドORを活用し、心臓血管疾患、動脈閉塞性疾患やブラッドアクセス等の血管疾患に対する専門性の高い手術件数の増加に努める。
- ⑥ 突発性難聴、難治性潰瘍を伴う末梢循環障害等に対する高気圧酸素治療の有効性を地域の開業医に発信し、治療枠の拡大を図り、早期からの積極的な治療を推進する。
- ⑦ 関節リウマチに対する教育入院の拡大とともに、浜松市や浜名湖かんざんじ温泉観光協会と、温泉利用プログラム型健康増進施設体制等をあらためて構築し、地域事業の発展のためPR戦略を共同で推進する。
- ⑧ 血栓溶解療法(TPA)及び血管内治療が24時間365日受け入れ可能となる運営体制の充実のため、脳神経外科・内科チームによる脳卒中当直体制の実現を目指す。

新規

- ⑨ 前立腺肥大水蒸気治療の導入及び安定化を図り、身体への負担が少なく高齢者も安心できる治療を推進する。

新規

- ⑩ 急性期充実体制加算1の算定要件となる「心臓胸部大血管手術」「消化管内視鏡手術」の実施件数の増加に取り組む。

関連指標	令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
手術件数（手術室）	5,782件	6,172件	6,100件
全身麻酔件数	2,233件	2,348件	2,500件
うち全身麻酔による緊急手術件数	274件	404件	420件
手術支援ロボット（ダビンチ） 実施件数	46件	37件	55件
心臓胸部大血管手術件数	40件	51件	100件
血管内治療手術件数			
脳神経外科	46件	54件	55件
循環器内科	473件	572件	550件
血管外科	87件	107件	90件
消化管内視鏡手術件数（内視鏡室）	485件	417件	600件
人工関節置換術（股・膝）件数	170件	165件	170件
高気圧酸素治療のべ患者数	821人	1,499人	1,500人

イ がん診療

- ① 地域がん診療連携拠点病院として、質の高い診断と治療（手術・放射線治療・化学療法）の提供、積極的な患者支援を遂行する。

- ② がん化学療法の専門性を高め、患者へ安全に治療提供を行うため、増床した化学療法室を活用して、より多くの症例を実施できるように進める。
- ③ がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム医療を推進するため、がん遺伝子パネル検査の実施並びに遺伝カウンセリングの充実を図る。
- ④ がんに伴う症状や治療による副作用を軽減する目的で行う支持療法を推進すると共に頭皮冷却装置(脱毛予防)の活用をすすめ、がん患者の生活の質を維持する。
- ⑤ 緩和ケアチームの新規介入を積極的に対応するとともに、3号館改修工事後に設置予定の緩和ケア病床の運用及び体制を検討する。
- ⑥ 地域がん診療連携拠点病院4病院共同で行政や企業主との連携のもと、がん患者就労対象者の支援を推進する。
- ⑦ がん患者の周術期における専門的な口腔ケアの提供の充実を図り、医科歯科連携を推進する。
- ⑧ 専門・認定看護師の活動を強化し、がん患者への心理的ケアや治療の意思決定支援の充実を図る。
- ⑨ 乳がん・卵巣がんにおいて遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)と診断された方やその疑いのある方に対する遺伝カウンセリングやリスク低減手術の提供の充実を図る。
- ⑩ 浜松市教育委員会と協働し、市内小・中・高校生へのがん教育推進に努める。
- 新規** ⑪ がん薬物療法指導医を中心に「腫瘍内科」を新設し、がん種横断的に専門的な治療に対応していく。

関連指標	令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
院内がん登録数	975 件 (3年度報告数)	930 件 (4年度報告数)	1,000 件以上
がん手術件数	578 件	633 件	650 件
薬物療法のべ患者数	1,594 人	1,692 人	1800 人
放射線治療のべ患者数	229 人	206 人	350 人
緩和ケアチーム新規介入件数	220 件	200 件	240 件
がんゲノム遺伝子パネル検査件数	21 件	32 件	33 件
がん患者指導管理料算定件数	3,433 件	2,721 件	2,800 件

ウ アレルギー診療

- ① アレルギー疾患医療拠点病院として、患者やその家族、医療従事者を対象とした定期的な講習会の開催や地域住民への啓発活動等に取り組む。
- ② 総合アレルギー外来により、診療科の垣根を越えた包括的かつ専門性の高いアレルギー診療を提供する。

エ エイズ治療

- ① エイズ治療拠点病院として、エイズ感染者の診療及び関係医療機関等への研修活動等を実施し、県内のエイズ治療の中核的役割を果たす。

オ 臓器・骨髄移植に関する医療

- ① 骨髄・末梢血幹細胞の移植及び採取認定施設として、移植医療提供の推進に努める。

- ② 日本臓器移植ネットワーク・県コーディネーターと連携し、円滑な臓器移植提供を実施し、臓器移植医療に貢献する。

(3) 地域医療への貢献

ア 地域住民の健康増進及び疾病予防

充実

- ① 特定健康診査（特定健診）、企業健診（生活習慣病予防健診）及び人間ドック並びにがん検診等の実施件数の増加に努めるとともに、3号館改修工事後に移転する予定の健診センターの運営体制について検討する。

新規

- ② 新病棟の特別室を活用する等の脳ドック、糖尿病ドックプランを組み合わせ、ドック健診の拡充を図る。
- ③ 出張健診車での訪問型健診の配車日程について、昨年度と比較し増加できるよう体制を整備する。
- ④ 検査項目ごとの人員配置を検討し、効率性の高い配置計画を策定する。
- ⑤ 地域住民・企業健診の胃がん検診に対して、内視鏡（胃カメラ）検査を実施し、特定健診と企業健診を同時に実施する体制の充実を図る。
- ⑥ 全国的に受診率が低い扶養者健診（扶養者特定健診）及び浜松市職員の職員健診の受診率の向上について対策を検討していく。

関連指標	令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
特定健診人数 (再掲:人間ドック)	16,338人 (814人)	17,177人 (807人)	16,900人 (840人)
胃がん検診人数	7,066人	7,116人	7,150人
大腸がん検診人数	10,999人	11,322人	11,350人
結核肺がん検診人数	16,449人	17,350人	17,000人
子宮がん検診人数	3,877人	4,172人	4,050人
乳がん検診人数	2,614人	2,600人	2,700人

イ 地域診療所等との連携

- ① 計画的に開業医への訪問活動を実施し、病診連携の運営に反映させ、紹介患者の確保に努める。
- ② 紹介患者を断らない体制強化のため、各診療科責任医師が緊急時の窓口となり、開業医からの診療依頼に対応する。
- ③ 紹介患者に対する確実な返書管理の徹底を図る。

充実

- ④ 紹介率の維持・向上を図るため、各診療科と連携強化を図り、紹介患者を積極的に受け入れる。また、患者や開業医からの紹介をスムーズに予約できる新しいシステムサービスを導入し、病病連携・病診連携の充実を図っていく。
- ⑤ 逆紹介が円滑に進むよう、診療情報提供書記載の徹底を図り、地域医療を推進する。
- ⑥ 新規入院患者の受け入れが滞ることがないように、入退院支援職員を病棟配置し、入院早期から適切に退院支援を実施する。また、緊急入院においても対応できる体制を構築する。

- ⑦ 入退院支援、介護支援連携等を確実に実践し、質の高い地域への後方連携を推進することで、後方支援医療機関との連携強化に努める。

関連指標	令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
紹介率	75.1%	75.9%	78.0%以上
逆紹介率	98.1%	105.3%	105.0%以上
入退院支援加算算定件数	4,074件	4,351件	4,500件
介護支援等連携指導料算定件数	1,081件	1,117件	1,100件

(4) 地域における医療水準の向上

ア 医療従事者及び医療従事者を目指す者の育成

- ① 浜松医科大学附属病院との連携強化のもと、新病院開院を見据えた事業拡充分野での協力・共同体制を推進するため、両病院間の医師の交流を図る。
- ② 浜松医科大学の関連教育病院として、医学部学生の臨床実習の受け入れ体制を整備し、医療従事者の育成に努める。
- ③ 市立看護専門学校への講師派遣及び看護実習生の積極的な受け入れ等を行い、地域の医療専門職の育成に貢献する。
- ④ 救急病院として救急搬送患者に対応する救急隊への勉強会や働きかけを行い、救急時の患者対応力向上に努める。

関連指標	令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
浜松医科大学学生臨床実習受入延べ人数	219人	239人	265人
看護実習生受入延べ人数	6,524人	7,155人	8,000人

イ 医学及び医療の向上に関する調査、研究

- ① 臨床研究管理センターが中心となり、医薬品等の治療効果や安全性を高めるために行われる治験への取り組みや、先進医療の推進と医療の発展に貢献する。
- ② 「とおとうみ臨床試験ネットワーク」や「静岡県治験ネットワーク」へ継続的に参加し、治験及び臨床研究の受託件数増加に努める。
- ③ 浜松医科大学と連携して共同治験及び共同臨床研究を進められるようシステムを構築し、アカデミックな分野のリサーチマインドの醸成を図る。

関連指標	令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
治験実施件数	7件	7件	8件
臨床研究実施件数	203件	228件	230件

(5) 医療の質及び安全の確保

ア 患者中心の安全・安心な医療の提供

- ① 安全文化の確立のため『報告する文化』の醸成
 - ・インシデント・アクシデント・オカレンス発生時は、職員が報告制度に基づき自主的に報告し、組織的対応を行う。

- ・院内や自部署で発生したインシデント・アクシデント・good job 事例を職員で共有し事例から学ぶ。
- ② 危険手技の安全な実施の推進
 - ・CVC ライセンス制度を推進し安全な CVC 穿刺を行う。
 - ・CVC・PICC・血液浄化用カテーテル挿入時に安全チェックリストを用いたタイムアウト・サインアウトを導入する。
 - ・経鼻栄養チューブ挿入と管理について、安全対策の改訂を行い、より安全な経鼻栄養チューブの挿入、挿入中のチューブ管理を行う。
- ③ 転倒転落防止対策の継続
 - ・転倒転落のリスク評価を適切に行い、環境整備とともに物的資源を適切に活用し、転倒転落発生率を減少させる。
 - ・転倒転落発生率について、クリニカルインディケータ（日本病院会 QI・日本看護協会 ディンクル）で当院の現状を評価し、転倒転落防止対策を継続する。
- ④ RRS を定着させ急変させない対応の推進
 - ・急変事例を検証し問題点を明らかにし、発生部署へフィードバックを行うことで、RRS に関する知識や認識を高める。
 - ・急変事例や RRS 事例は、当該部署で症例検討会やシミュレーション訓練を行い改善に取り組む。
- ⑤ 患者安全に関する職員教育の継続
 - ・当院で発生した警鐘的事例の報告会を開催し、対策の目的を含め周知を図る。
 - ・M&M カンファレンスを定期的で開催する。（医療安全管理室主催・各診療科主催）
- ⑥ 患者の医療安全への参加
 - ・患者・家族と一緒に確認行動を行うことで、患者誤認を防止する。
 - ・患者安全に対する患者家族の意見を聞き、改善につなげる。
- ⑦ 臨床倫理についての職員教育及び患者の意思決定の支援
 - ・患者の意思決定支援として、DNAR に関する職員教育を行う。
 - ・DNAR について職員が共通理解を持ち、多職種のチームで患者の意思決定を支援する。
- ⑧ 各部門・部署の業務改善活動の実施及び医療の質の向上
 - ・業務改善委員会を立ち上げ、職員に現状のクリニカルインディケータ（医療の質を表す臨床指標）を公開する。
 - ・各部門・部署が問題点を明らかにし問題解決に取り組むことで、医療の質を向上させる。

新規

イ 医療の標準化と最適な医療の提供

- ① 院内クリニカルパスの見直しを図り、医療の標準化、質の高い医療の提供に努める。
- ② 高度急性期病院として 7 対 1 急性期一般入院料の基準を満たし、看護補助者と協働し、最適な医療サービスを提供する。

ウ 医療スタッフの確保

- ① 医師の確保と負担軽減
 - ・救急医療、がん医療、高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、医師の育成及び確保に努める。
 - ・臨床研修医の要望や社会的な要請に合致した教育研修プログラムのさらなる充実により、臨床研修医の受け入れ推進と定着を図る。
 - ・働き方改革に沿った勤務環境の改善を推進し、医師個人の負担軽減に努める。
- ② 看護職及び医療技術職の確保と専門性の向上
 - ・新病棟の新機能である重症集中治療室(ICU)、救命救急センター、手術センター等に対応できる看護師、臨床工学技士、診療放射線技師等の確保及び育成を推進する。
 - ・7 対 1 急性期一般入院料の基準の維持並びに徹底した感染症対策を行うため、必要な看護師を確保する。

充実

- ・ 専門医・認定専門看護師・専門技師等の資格取得の促進を図る。
 - ・ 迅速な処置等が適切に実施でき、医師の負担を軽減できる特定行為研修修了看護師の養成に努める。
 - ・ 離職率の高い職種においてその要因を調査し、離職防止対策を講じることで、安定的な職員の確保に努める。
 - ・ 組織の活性化を促すため、人事評価制度の導入に向けて検討していく。
- ③ 事務職員の確保と専門性の向上
- ・ 事務職員を計画的に採用し、資質向上のためOJT教育の充実等を図る。
 - ・ 病院経営の中核的役割を果たせるよう、事務職員の育成に努める。

関連指標	令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
臨床研修医募集定員充足率	92.3%	92.3%	100.0%
臨床研修医マッチング数	12人	12人	13人
認定・専門看護師数 (再掲：特定行為看護師数)	30人 (2人)	32人 (3人)	32人 (6人)
100床あたりの医師数	28.7人	27.5人	29.3人
100床あたりの看護師数	99.0人	97.2人	103.5人

(6) 患者サービスの向上

- ① 患者満足度調査や「患者のみなさまの声」から患者ニーズを把握し、そのニーズを満たすために迅速かつ柔軟な改善及び対応を行う。
- ② 看護補助者の充実により、入院患者への関わり等を拡充し、医療サービスの向上に努める。
- ③ 患者の視点に立った安全・安心なサービスを提供するため、新病棟完成後の建築設備等の不具合を速やかに改善できるよう検討する。
- ④ 厚生労働省が推進するマイナ保険証の利用について、目標利用率を定め、利用促進に努める。

(7) 法令等の遵守と情報公開の推進

- ① 医療法等の関係法令を遵守し、院内の各種規程の整備及び見直しを図る。
- ② インフォームド・コンセントの一層の徹底、カルテやレセプト等医療情報の開示請求、セカンド・オピニオンの対応について、適切に取り扱い、患者及びその家族の信頼向上に努める。

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) PDCA サイクルによる経営戦略の構築

- ① PDCA サイクル (Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Action (改善) の繰り返し) を用いて、計画的かつ継続的に改善活動を実施する。

(2) 適正な人事配置と評価

- ① 高度な専門知識と技術を提供するための優れた医療従事者を適切に配置する。
- ② 健全な経営を維持するため、業務量に応じた適正な人員数を配置する。

(3) 職員の就労環境の整備

- ① 日常業務の質の向上を図り、患者の安全を守るために必要な職員の就労環境を整備する。
- ② 職員個々の能力を発揮できるよう、職種・職場の事情に応じた柔軟な勤務形態を取り入れる。
- ③ 勤務環境の改善を通じ、職員が健康で安心して働くことができる環境整備を促進するとともに、離職の防止に努める。
- ④ 医師、看護師等の業務のタスクシフトに取り組み、生産性向上と働き方改革に沿った勤務環境改善を推進する。

3 財務内容の改善に関する事項

(1) 収入の確保

充実

① 診療報酬改定への迅速かつ適切な対応により、新規施設基準の取得による診療単価向上への取り組みを行う。

充実

② 病床管理システムを効果的に活用し、空床の把握や病床稼働率の状況を院内で共有していき、新入院患者の増加に向けた取り組みを行うとともに、DPC期間Ⅱ以内の退院率70%を目標に病床回転率を上げて、収益性の向上を図る。

充実

③ 全身麻酔下による手術件数の増加に向けた取り組みを行い、収益性の向上及びDPC特定病院群を目指す。

④ 専門外来を充実し紹介患者の増加に努める。また、日帰り外来手術を増やす等の見直しを行い、外来患者及び外来診療単価の増加を図る。

⑤ 経営分析システムの分析結果を考慮しながら、適正な収益の確保に努める。

関連指標	令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
入院患者延べ数	168,417人	164,214人	171,915人
1日平均入院患者数	461人	450人	471人
病床利用率	76.9%	75.0%	78.5%
平均在院日数	12.6日	12.2日	11.3日
外来患者延べ数	236,116人	235,725人	243,000人
1日平均外来患者数	976人	970人	1,000人

(2) 費用の節減

- ① 医薬品や診療材料の調達に際して、ベンチマークシステムを活用し、価格交渉の徹底を図るとともに、共同購入等の検討を進めながら、さらなるコスト削減を図っていく。
- ② 医薬品購入費の削減を図るため、新規採用薬品の厳密な選定、同種同効薬の整理、院内各部署における定数配置薬の整理等を行うとともに、管理の強化を図る。
- ③ 業務委託契約、賃貸借契約等について、原則、競争原理を働かせる手法により契約内容及び契約金額の見直しを行い、委託費・賃借料の費用を抑える。
- ④ 医療の質、医療安全の確保等に配慮した職員の生産性が向上する採用と配置を進め、人件費比率の適正化に努める。

(3) 経常収支比率の均衡

- ① 公立病院の責務として、不採算医療を担うとともに、高度・専門医療を提供し地域の医療水準の向上に貢献するなど、常に公共性と経済性を共に発揮し、地域住民の医療を確保する。

- ② 必要な公的負担を受けながら、最小経費によって最大効果を得られるよう効率的な運営を行うとともに、特定費用準備資金を活用するなど令和3年度から7年度までの期間を通じて収支均衡を図れるよう収支計画を策定する。

関連指標		令和3年度実績	令和4年度実績	令和6年度計画
給与費対医業収益率		54.3%	52.2%	47.0%以下
材料費対医業収益率		29.4%	31.6%	32.0%以下
主な内訳	薬品費	17.7%	18.8%	19.4%以下
	診療材料費	10.7%	11.6%	11.8%以下

4 その他業務運営に関する重要事項

(1) 新病院整備事業

- ① 新病棟開院後の是正が必要な不具合箇所について、節約性のある視点で改善に取り組む。
- ② 新病棟移転に伴う廃棄とされた機器、什器等を仕分けし、コスト面に配慮した適正な物品管理を行うとともに、今後の利活用の促進に向けて検討する。
- ③ 3号館改修工事について、新病棟の移転等に伴う経験を活かし、浜松市と設計・施工者と連携を図りながら、整備計画を進めていく。

(2) 医療と介護の連携推進事業の支援

- ① 地域包括ケアシステムの構築に向け、医療及び介護の連携推進事業を推進し、公立病院の役割を果たす。
- ② 地域包括ケアセンターや地域の介護福祉施設等との連携強化を図り、在宅医療・介護連携に関する相談支援に努める。

(3) 公立病院の連携・支援

- ① 西部医療圏の地域医療を確保するため、医師、看護師派遣等の支援を行う。
- ② 西部医療圏の公立病院と連携を深め、救急医療及び入院治療等の提供を積極的に行い、病病連携の推進に取り組む。
- ③ 西部地域におけるネットワークの核として、浜松医科大学と浜松医療センターの地域医療連携推進法人の設立を目指す。

新規

(4) 職員の子ども及び地域の子どもに対する保育の提供に関する業務

- ① 地域型保育事業の認定を受けたあゆみ保育園において、職員の子ども及び地域の子どもに対する保育の提供を行い、公立病院として地域を含めた働きやすい子育て支援環境の維持・確保に努める。